2003.7.16
第121号

編集・発行
福島県教育庁
会津教育事務所
永嶋啓一
編集協力
福島県市町村教育委員会連絡協議会
北会津支会、耶麻支会、南会津支会
小・中学校長会

「捨て目」を使える教師

福島県教育庁
会津教育事務所長
永嶋啓一

ある雑誌を読んでいたときふと「捨て目」という言葉が目に留まった。もう今では死語になっている言葉で、国語辞書などにも載っていない。

教師は毎日の教育活動の中で、例えば、すれちがう子どもの様子、授業中の子どもの目の輝き、或いは、廊下に落ちているごみ、壁の掲示物、落書き、置いてある教具類等が自然に目に入ってくる。

その時、それらを自然に心に留めておける教師にならなければならないと、若い頃仕えた校長先生に、教師の心構えとして指導された。捨て目とは、日常の物事を見ようとして見るのではなく、目に映るものや出来事を目の端に捉え、心覚えしておくことという意味だったと記憶している。

小学校の校長職にあったとき、学級経営が非常に上手な先生がいた。彼女は、子どもの小さな変化を敏感に感じ取り、迅速に対応する担任であった。それだけでなく、教室や校舎の掲示物のはがれや乱雑な教具類を見ると、すぐ対応してくれる教師でもあった。

一方、「あなたの教室の廊下にガムがへばり付いていたよ」等と注意しても、その度毎に初めて気づいてびっくりしている教師もいた。廊下を歩けば必ず目に留まる場所なのに、そこを何度往復しても目に留まらない。見ようとして見たものしか見えない。

捨て目が使えないのである。捨て目が使える教師は、「そういえば、あのとき態度が変だった」「そのときガラスにはヒビが入っていなかった」「確かその工具はそこにあった」

この〝そういえば・・・〟という気づきは、見ようとして意識して見たのではない。たまたま別の目的で活動していたとき、その途中、自然に目に入ったものを、記憶のすみにちょっと留めておけたことから生まれたものである。

教師の捨て目は、常日頃からの『子どもにとって　という視座からの、学校生活の全てのものの存在と変化への好奇心』から生まれてくるものと考える。捨て目を使える教師になりたい。

管理課重点事項

学校事故・教職員の事故防止につきましては、各市町村教育委員会や各学校におきまして、くり返しご指導いただいているところでありますが、今後とも事故0（ゼロ）に向けて努力をお願いします。

1　学校事故防止

（1）学校火災・盗難事故の防止

- 空き教室・物置等の整理整とんに努めるとともに、校舎周辺の可燃物を撤去すること
- **集金事務は適正**に執行し、現金は学校に置かず、その日のうちに金融機関に預けること
- 不法侵入や器物破損等を防ぐために、**校舎の施錠及び鍵の保管**を適切に行うこと
- 重要書類等は校外に持ち出さないこと

（2）施設設備の安全管理

- プールの管理運営については、常に細心の注意を払い事故の未然防止に努めること

2　教職員の事故防止

（1）交通事故防止

- **交差点での事故**が多く発生しているので、一時停止・左右確認の励行を確認すること

（2）信用失墜行為の絶無

- **飲酒運転**や**セクハラ・体罰**等の絶無を期すこと

（3）教職員の負傷事故の防止

- 教職員の負傷事故については、自分の体力を過信せず、無理のない運動をすること

（4）教職員のメンタルヘルス

- 教職員が一人で悩みを抱え込まないで何でも相談し合える職場環境づくりに努めること

学社連携・融合の一層の推進を目指して

生涯学習課

［平成15年度生涯学習課重点事項］

本年度も福島県教育庁生涯学習・文化スポーツ領域の各グループとの連携を密にし、次の点を重点に取り組みながら、学社連携・融合の一層の推進に努めますので、ご理解・ご協力をお願いします。

1　県民カレッジ整備事業

県民の高度化・多様化する学習ニーズや生活圏の拡大に伴う学習活動の広域化に対応するため、県、市町村、大学等高等教育機関、NPO及び民間事業者が連携を図り、体系的な学習機会の提供、学習成果を生かした社会参加活動を支援する県民カレッジについて、平成16年度の開設に向けて整備を進める。

① 地域講座モデル事業の実施

5町1村の相互乗り入れによる“トライ塾「つくる」”をテーマに、会津ならではの体験ができる講座をモデル的に展開する。

② 市町村広域連携講座モデル事業

21市町村から37事業を提供いただき、情報を21市町村が共有し、将来の広域的参加を目指した相互交流を支援する。

2　体験活動・ボランティア推進センター事業

この事業は本年度2年目を迎え、特に市町村の推進体制整備を促進するとともに、青少年の体験活動・ボランティア活動の充実が図れるよう情報提供やコーディネートに努める。

① 地域センター（会津教育事務所内）事業

○ 地域センター協議会（年2回開催）

○ 学校と地域を結ぶコーディネーター学習会（年1回）

○ 学習ボランティア人材登録会（年1回）

○ 教育ボランティア研修会（年1回）

※ 地域センター・コーディネーター

・ 生涯学習課　岡村三夫社会教育主事

・ 指導課　中村幸裕指導主事

② 青少年活動を支援する3つのボランティア

○ 学習ボランティア

昨年度以上の人材確保と活用に努める。

○ 教育ボランティア

本年度モデル地区として制度化され、小中学校での人材活用が可能である。45人×35回の範囲内で最大限活用に努める。

○ 病院訪問学習支援ボランティア

要請に応じて人材活用を促進する。

③ 市町村の推進体制整備

本年度新たに12市町村に支援センターが立ち上がり、合計13市町村に整備される。

④ 各学校での推進体制整備

○ 人材についての調査（年1回）

○ 体験活動・ボランティア活動状況調査（実施計画・実施報告）（年2回）

3　心を繋ぐ異世代間交流事業

様々な教育資源を生かし、幅広い異世代間交流を含めた事業を通して、豊かな体験を積ませ「生きる力」を育むなどの地域教育力活性化に向けた総合的なモデル事業を支援する。

① 地域教育力活性化・体験活動推進モデル事業（猪苗代町）

② 放課後子どもスポーツ活動活性化モデル事業（熱塩加納村・三島町）

4　親育て・子育てサポート事業

多様な家庭教育上の課題に対する学習機会の拡充を図るとともに、地域社会全体での子育て支援に向けた環境構築を促進する。

① 家庭教育地域フォーラム・中央フォーラム

② 家庭教育地域支援事業

○ 親支援ネットワーク協議会（猪苗代町・会津本郷町・昭和村）

○ 子育てサポーター養成研修会（熱塩加納村・喜多方市）

5　子育て学習県民講座

親および将来親になる年代も含めて子育てやしつけなどの家庭教育のあり方を見つめ直してもらうため、講座を開設する。（91講座）

① 思春期子育て講座（15市町村・25講座）

② 就学時健診等子育て講座（17市町村・63講座）

③ 妊娠期子育て講座（2村・3講座）

～地域教育相談推進事業だより～

うつくしま教育改革「共に学ぶ環境づくり」のために

教育相談推進員　矢部征男

今年度、新たに『地域教育相談推進事業』がスタートしました。

この事業は、

保育所、幼稚園、小・中学校に在籍している障害のある子どもやＬＤ、ＡＤＨＤ等特別な支援を必要とする子どもとその保護者、担当教員等に対して、障害児の指導の在り方、療育及び就学等に関して必要な支援を継続的に行う

というものです。

このため

○　要望に応じて、巡回相談員（５名）が相談者を訪問します。

○　医師、保健師、臨床心理士を含む10名で構成する「支援チーム」をおき、より適切な支援を考えます。

○　相談にあたっては、派遣要請書や旅費等は必要ありません。

なお、お申し込みは会津教育事務所内の下記番号までお願いいたします。

電話　０１２０－８９９－７１４

学校や地域において、障害のある子どもと障害のない子どもが『共に学ぶ』ことのできる教育推進のためどうぞご活用いただきたいと思います。

地域に学ぶ

皆鶴姫伝説

河東町教育委員会

皆鶴姫は「義経記」に登場する鬼一法眼（兵法師）の義理の娘です。美しい娘に成長した娘は源義経に恋するようになりました。

一方義経は、平清盛に追われる身となり、奥州へ逃れました。

この義経を慕って旅に出た皆鶴姫ですが、河東町の藤倉の地まで来たとき、病に倒れてしまいました。

村人たちの手厚い看護により快方に向いましたが、ある日、難波池に映るやつれはてた自分の姿を見て、驚き悲しみ、思い余って池に身を投じてしまいました。皆鶴姫18歳の春でした。

この事を義経は磐梯町の大寺で知り、池のほとりに葬って墓を築いたとされます。

義経に再会できず空しいまま亡くなった皆鶴姫は、他の人にはこのような別離の気持ちを味わわせたくないとして、難波池をおとずれる人に良縁を授けると、今日まで言い伝えられています。

町では、「あいづかわひがしふれ愛市」という名称で、皆鶴姫の墓前祭や縁日を行っています。

心に残る人々

北会津村教育委員会教育長

中山雄助

「五十にして、四十九年の非を知る」荘子の言葉を思い出した。おまえはどうなんだと問われたら、残念ながら「昨日までの非を知る」とこたえます。この世に生をうけ、これまで多くの方々の力をいただきながら、昨日も何とか無事に仕事を終えることができ感謝しています。

戦中戦後、小学校時代の食糧難とないないづくしの中で、先生の言葉が大きな自信となった。

「何もはずかしいことはない。悪いことをしているわけでもない。堂々としなさい。」先生自ら新聞紙に包んだ粗末な弁当に継ぎ接ぎの衣服、子どもの最低生活に合わせた生き方は、すべてが美しく見えた。小学校三年生だった私にとって今でも先生の笑顔がはっきり映り出される。やさしさと厳しさが心地よく思い出されるから不思議だ。

先生の授業は楽しく、一言一言が心に残った。

その影響を受けたせいか私も先生と同じ教育の道を歩むことになり感謝している。少しでも先生に近づくことが喜びであり、終生、追い求めていけるよう日々努めたい。その先生は古川クマ先生。

私の抱負

のぼり旗

昭和村立昭和小学校
校長　本名幸平

運動会の時、校庭のまわりに自作の「のぼり旗」を立てました。五色の反物布地を購入し、裁断し、太い毛筆と白ペンキを用いて作りました。全校児童分三十六本。パタパタと風になびく「のぼり旗」と万国旗。それに保護者の協力をいただいて集めた九十二匹の鯉のぼり。壮観でした。

「のぼり旗」には児童の名前が白く染めぬかれ、赤・茶・緑・紫・紺の布地からくっきりと浮き立って翻っています。自分の旗を確かめに来てはニコッとして立ち止まり、安心したようにまた駆け出していく子どもたち。

「うわぁ、わたしの旗、生きでるみでぇ！」

そのとおり。旗さえも生きている。まして生身はなおさらに。私もニコッと返します。

学び合いをめざして

北塩原村立裏磐梯小学校
教頭　大橋淳子

国立公園内にある自然と調和した美しい校舎、教室から見える裏磐梯の勇姿、すばらしい自然、素直な子どもたち、温かい地域の皆様に感動しながら勤務している。新任教頭として着任し、まず入学式で地域の皆様の子どもたちへの強い思いを感じた。入学児童九名に、四十名もの来賓の皆様がご臨席くださるのである。

多くの方々に支えられ、ご指導いただきながら、教頭職としてのあり方や裏磐梯の地域について学ぶ日々である。

今後は地域の皆様の思いに応えるためにも、学校の中心である授業づくりに力を入れていきたいと考える。裏磐梯小学校の子どもたちのために、先生方と夢を語り合いながら、共に学び合う教師集団をめざしていきたい。

私の抱負

会津若松市立第一中学校
教諭　赤間忠

新任教員として着任し二ヶ月が経ちました。先輩の先生方の支えと生徒たちの笑顔に励まされ、慌ただしい中にも充実した日々を送ることができました。この二ヶ月を反省し、今後の抱負として決意を述べたいと思います。

第一に、授業で勝負のできる教師を目指します。わかる授業を心がけ、日々指導方法を反省・改善し、授業は生徒にとって一度しかない大切な時間であるとの認識を常にもち続けていきます。

第二に、生徒理解に努めていきます。常に新鮮な目で生徒と接し、話を聞くことに徹していきます。

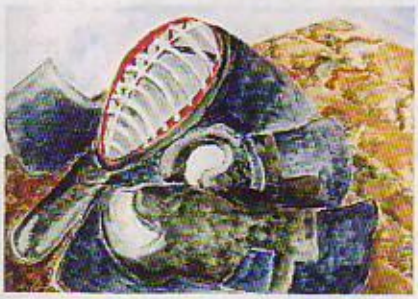
課題は尽きませんが、初心を忘れることなく、情熱を持ち続け、教員としての資質を磨いていきます。

作品と指導

絵

『静物画（防具を描く）』

猪苗代町立東中学校
3年　渡部さおり



防具から感じたことを表現するための構図や彩色の仕方を意識させた。防具を画面いっぱいに大胆に描き、彩色を工夫しながら材質感を表現している。作品からは、スポーツ好きのさおりさんが感じた防具の重厚感が感じられる。

指導者　荒川典子

習字

『成長』

会津高田町立東尾岐小学校
6年　川島佑太

児童自身の課題である「字形を整えて書く」ためには、正しい筆順で書くこと、一画目と二画目の接し方に気をつけること、はねやはらいの書き方に注意することが大切であることを助言し、主体的に練習できるよう配慮した。

指導者　菅沼京子

工作

『親子のクジラ』

喜多方市立松山小学校
5年　猪瀬寛生

電動糸のこを使った作品づくり。合板を自由に切りながら、廃材を利用し、その良さを生かして作品づくりに挑んだ。初めの形は「はさみ」のようであった。その後、友だちとの関わりからイメージを膨らませ、大きなクジラの親子へと大変身させることができた。

指導者　酒井賢司